４　校内研究・研修

（１）研究主題

教　科　等	研　　究　　主　　題	指定区分・指定内容
社　会　科 生　活　科	根拠のある考えを持ち、友だちと学び合う児童の育成 ～意欲的に問題解決する授業のあり方～	

（２）主題設定の理由

本校は、平成２２年度から、表現力の育成をテーマに研究を進めてきた。特に、豊かに考えて表現することや、かかわり合い、伝え合うことを意識した授業づくりに取り組んできた。その中で、自分なりの思いや考えは持てるようになったが、その理由について、十分に表現できなかったり、友だちとの関わりから自分の考えを広げたり深めたりすることにも課題が見られた。

教師にも課題が見られる。授業において、その子の生活体験や学びに根ざした気づきや考えが発せられても、その大切さに気づくことができずに見過ごしてしまうことが少なくない。教師主導の授業を展開することや、「わかりやすい授業を」と意識するあまり、教師の説明に時間を費やし、主役である子どもたちの出番が少ない授業を展開する傾向も見られる。

根拠のある考えをもとに自分の思いを相手に伝える力は、思いつきや何となくで話すのではなく、今までの生活経験や調べたり考えたりしたことをもとにして、自分の思いを相手に分かりやすく伝えていく力であり、これからの社会を担う子どもたちにとって大切な力であると考えられる。

また、子どもが課題に向き合い、とことん考え、その考えをみんながしっかりと受けとめ、互いに高め合い、よりよい解決の方法に向かう問題解決的な授業の構築は大切である。その学習の力が、学校生活の中で、さらには、将来様々な困難に立ち向かい、よりよい社会を創造する担い手となる力につながる。子どもたちにとって、日々の「授業」は、こうした力をつける「学習体験」の場として構築していかなければならないと考える。

今年度は、これらの力の育成を、社会科・生活科を窓口として授業で実践・検証・研究していく。自ら課題を持ち、ダイナミックな体験活動を通して、「もっと調べたい」「もっと考えたい」と追究し、友だちとともに課題を解決する中で、認め合い高め合うことができる子どもの育成をめざして、本主題を設定した。

（３）研究の内容と方法

年間７回の研究授業・授業研究会、および研修会を通して、以下の点について研究を行う。

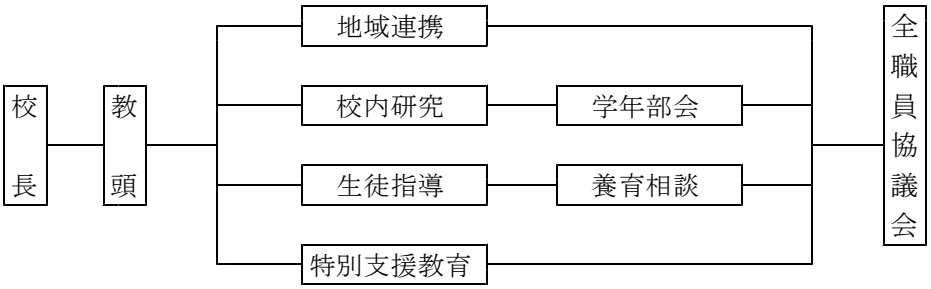
① 各学年（部）で研究主題をもとにそれを具現化するために、資料の発掘、見学や調査活動の位置づけ、まとめの方法など、課題提示から問題の解決に至る指導計画のあり方を明らかにし、単元の導入の入り方・子どもが興味を持つ導入の工夫について研究する。

② 授業研究会では、授業記録をもとに、子どもの発言からその子のこだわり、追求の道筋を探るとともに教師の発問や資料の提示の仕方、子どもの発言が根拠を持った発言かを実証する。

（４）研究・研修計画

月	校　内　研　究	校　内　研　修
４	校内研究推進計画の検討 校内研究推進計画の樹立 全体計画の提案（共通理解）	生徒指導等の推進計画の立案 特別支援教育研修
５	校内研究会（社会科、生活科の指導上の重点）（5/18）	生徒指導（子どもを語る会） 学力向上に関わる研修会
６	校内研究会（授業研究・全体会）（6/22）	教育相談週間 相撲の審判に関わる研修
７		特別支援教育研修・福祉教育研修 生徒指導（子どもを語る会） 性教育研修
８	校内研究会 ・２学期の授業の計画・準備	職員研修（公務員のあり方・交通安全） 生徒指導研修 学力向上に関わる研修
９	校内研究会（授業研究・全体会）（9/28）	
１０	校内研究会（授業研究・全体会）（10/12） 校内研究会（授業研究・全体会）（10/26）	生徒指導（子どもを語る会）
１１	校内研究会（授業研究・全体会）（11/15） 校内研究会（授業研究・全体会）（11/30）	教育相談週間
１２		人権教育
１	校内研究会（授業研究・全体会）（1/18）	
２	校内研究会（本年度の成果と課題）（2/22）	特別教育支援研修 生徒指導（子どもを語る会） 学力向上に関わる研修
３	校内研究会（次年度への見通し）	

（５）校内研究・研修体制の概要



（６）過去５年間の研究主題

平成２３年度　　豊かに考え、表現し、かかわり合う子どもの育成
平成２４年度　　豊かに考え、表現し、かかわり合う子どもの育成
平成２５年度　　豊かに考え、表現し、かかわり合う子どもの育成
平成２６年度　　豊かに考え、表現し、かかわり合う子どもの育成
平成２７年度　　自分の思いや考えを持ち、豊かに表現する子ども
～書く活動を生かし、伝え合う力を育てる授業づくり～

（４）研究仮説

社会科・生活科の指導において、子どもに根拠ある考えや気づきを持たせ、それらを互いに把握・交流し、つないでいく工夫をすれば、子どもは意欲的に問題解決に取り組み、学習に対する喜びや仲間とともに学び合うことの大切さを体感することができるであろう。